

2019年度第2四半期（上半期）報告

ネオファースト生命保険株式会社（代表取締役社長：徳岡裕士）の2019年度第2四半期（上半期）の業績は添付のとおりです。

※資料中、「第2四半期（上半期）」は「4月1日～9月30日」を表しております。

<目次>

1. 主要業績	……	1頁
2. 一般勘定資産の運用状況	……	3頁
3. 資産運用の実績（一般勘定）	……	4頁
4. 中間貸借対照表	……	7頁
5. 中間損益計算書	……	8頁
6. 中間株主資本等変動計算書	……	9頁
7. 経常利益等の明細（基礎利益）	……	12頁
8. 債務者区分による債権の状況	……	13頁
9. リスク管理債権の状況	……	13頁
10. ソルベンシー・マージン比率	……	14頁
11. 特別勘定の状況	……	14頁
12. 保険会社及びその子会社等の状況	……	14頁

以上

1. 主要業績

(1) 年換算保険料

・保有契約

(単位：百万円、%)

区 分	2018年度末	2019年度	
		第2四半期(上半期)末	前年度末比
個人保険	135,082	136,684	101.2
個人年金保険	4	5	122.5
合 計	135,086	136,689	101.2
うち医療保障・ 生前給付保障等	10,145	13,763	135.7

・新契約

(単位：百万円、%)

区 分	2018年度 第2四半期(上半期)	2019年度	
		第2四半期(上半期)	前年同期比
個人保険	58,493	4,374	7.5
個人年金保険	—	—	—
合 計	58,493	4,374	7.5
うち医療保障・ 生前給付保障等	2,555	4,058	158.8

- (注) 1. 年換算保険料とは、1回あたりの保険料について保険料の支払方法に応じた係数を乗じ、1年あたりの保険料に換算した金額です。
2. 「医療保障・生前給付保障等」については、医療保障給付(入院給付、手術給付等)、生前給付保障給付(特定疾病給付等)、保険料払込免除給付(障害を事由とするものは除く。特定疾病罹患等を事由とするものを含む)等に該当する部分の年換算保険料を計上していません。

(2) 保有契約高及び新契約高

・保有契約高

(単位：千件、億円、%)

区 分	2018年度末		2019年度 第2四半期（上半期）末			
	件 数	金 額	件 数		金 額	
			前年度末比		前年度末比	
個 人 保 険	223	9,029	278	124.8	10,497	116.3
個人年金保険	0	0	0	100.0	0	98.3
団 体 保 険	—	—	—	—	—	—
団体年金保険	—	—	—	—	—	—

(注) 個人年金保険の金額は、年金開始後契約の責任準備金です。

・新契約高

(単位：千件、億円、%)

区 分	2018年度 第2四半期（上半期）				2019年度 第2四半期（上半期）					
	件 数	金 額			件 数	前年 同期比	金 額			
		新契約	転換による 純増加				前年 同期比	新契約	転換による 純増加	
個 人 保 険	53	710	710	—	62	117.3	1,379	194.1	1,379	—
個人年金保険	—	—	—	—	—	—	—	—	—	—
団 体 保 険	—	—	—	—	—	—	—	—	—	—
団体年金保険	—	—	—	—	—	—	—	—	—	—

2. 一般勘定資産の運用状況

(1) 運用環境

2019年度第2四半期(上半期)の日本経済は、雇用・所得環境の改善などを背景とした個人消費によって下支えされましたが、海外経済の減速などを受けて輸出が弱く、景気の拡大幅は小幅なものにとどまりました。米国においても、個人消費が堅調さを維持しましたが、米中貿易戦争による不透明感の高まりによって設備投資や外需が低迷し、景気は減速基調となりました。また欧州でも、ドイツで外需の低迷を背景にマイナス成長となるなど、全体的に減速感を強め、先行きの景気後退も意識されました。

こうした経済情勢の中で、運用環境は以下のようなものとなりました。

<国内金利>

10年国債利回りは、日本銀行が長短金利操作付き量的・質的金融緩和を継続したほか、欧米中央銀行が利下げを中心とした金融緩和策を実施したことなどから、低水準での推移を継続しました。加えて、米中貿易戦争の悪化が懸念された局面では、一時△0.30%近辺に低下しました。

10年国債利回り	年度始	△0.095%	→	上半期末	△0.225%
----------	-----	---------	---	------	---------

<国内株式>

日経平均株価は、世界経済の減速に伴う企業業績の下押し懸念や米中貿易戦争の悪化懸念などから急落する場面も見られましたが、欧米を中心とした中央銀行による金融緩和策により下支えされました。

日経平均株価	年度始	21,205円	→	上半期末	21,755円
TOPIX	年度始	1,591ポイント	→	上半期末	1,587ポイント

<為替>

円/ドルについては、米中貿易戦争の悪化懸念に伴うリスク回避の動きや、米国利下げに伴う内外金利差の縮小等により、円高・ドル安基調での推移となりました。

円/ユーロについては、イタリアなどの政治情勢への懸念に加え、景気減速の強まりを背景とした欧州中央銀行(ECB)による利下げなどを背景に、円高・ユーロ安基調での推移となりました。

円/ドルレート	年度始	110.99円	→	上半期末	107.92円
円/ユーロレート	年度始	124.56円	→	上半期末	118.02円

(2) 運用方針

安定的な運用収益の確保を目指す観点から、主に公社債などの確定利付資産で運用を行います。

(3) 運用実績の概況

2019年度上半期末における一般勘定資産は、196,533百万円となりました。運用資産残高は、預貯金117,944百万円、公社債23,209百万円、株式671百万円となりました。なお、資産運用収益は、利息及び配当金等収入62百万円となりました。また、資産運用費用は、支払利息0百万円となりました。

3. 資産運用の実績（一般勘定）

(1) 資産の構成

（単位：百万円、％）

区 分	2018年度末		2019年度 第2四半期（上半期）末	
	金 額	占 率	金 額	占 率
現預金・コールローン	86,188	54.7	117,944	60.0
買現先勘定	—	—	—	—
債券貸借取引支払保証金	—	—	—	—
買入金銭債権	—	—	—	—
商品有価証券	—	—	—	—
金銭の信託	—	—	—	—
有 価 証 券	15,244	9.7	23,881	12.2
公 社 債	8,429	5.4	15,687	8.0
株 式	103	0.1	671	0.3
外 国 証 券	6,710	4.3	7,521	3.8
公 社 債	6,710	4.3	7,521	3.8
株 式 等	—	—	—	—
そ の 他 の 証 券	—	—	—	—
貸付金	61	0.0	155	0.1
不動産	105	0.1	100	0.1
繰延税金資産	—	—	—	—
その他	55,829	35.5	54,452	27.7
貸倒引当金	△0	△0.0	△0	△0.0
合 計	157,428	100.0	196,533	100.0
うち外貨建資産	—	—	—	—

（注）不動産については建物の金額を計上しております。

(2) 資産の増減

（単位：百万円）

区 分	2018年度 第2四半期（上半期）	2019年度 第2四半期（上半期）
現預金・コールローン	28,570	31,756
買現先勘定	—	—
債券貸借取引支払保証金	—	—
買入金銭債権	—	—
商品有価証券	—	—
金銭の信託	—	—
有 価 証 券	6,946	8,636
公 社 債	2,299	7,257
株 式	34	568
外 国 証 券	4,613	810
公 社 債	4,613	810
株 式 等	—	—
そ の 他 の 証 券	—	—
貸付金	0	93
不動産	99	△4
繰延税金資産	—	—
その他	24,678	△1,377
貸倒引当金	0	0
合 計	60,296	39,105
うち外貨建資産	—	—

（注）不動産については建物の金額を計上しております。

(3) 資産運用収益

(単位：百万円)

区 分	2018年度 第2四半期（上半期）	2019年度 第2四半期（上半期）
利息及び配当金等収入	17	62
預貯金利息	—	—
有価証券利息・配当金	17	60
貸付金利息	0	1
不動産賃貸料	—	—
その他利息配当金	—	—
商品有価証券運用益	—	—
金銭の信託運用益	—	—
売買目的有価証券運用益	—	—
有価証券売却益	—	—
国債等債券売却益	—	—
株式等売却益	—	—
外国証券売却益	—	—
その他	—	—
有価証券償還益	—	—
金融派生商品収益	—	—
為替差益	—	—
貸倒引当金戻入額	0	0
その他運用収益	—	—
合 計	17	62

(4) 資産運用費用

(単位：百万円)

区 分	2018年度 第2四半期（上半期）	2019年度 第2四半期（上半期）
支払利息	0	0
商品有価証券運用損	—	—
金銭の信託運用損	—	—
売買目的有価証券運用損	—	—
有価証券売却損	—	—
国債等債券売却損	—	—
株式等売却損	—	—
外国証券売却損	—	—
その他	—	—
有価証券評価損	—	—
国債等債券評価損	—	—
株式等評価損	—	—
外国証券評価損	—	—
その他	—	—
有価証券償還損	—	—
金融派生商品費用	—	—
為替差損	—	—
貸倒引当金繰入額	—	—
貸付金償却	—	—
賃貸用不動産等減価償却費	—	—
その他運用費用	—	—
合 計	0	0

(5) 売買目的有価証券の評価損益

該当ありません。

(6) 有価証券の時価情報 (売買目的有価証券以外の有価証券のうち時価のあるもの)

(単位：百万円)

区 分	2018年度末					2019年度第2四半期(上半期)末				
	帳簿価額	時 価	差損益			帳簿価額	時 価	差損益		
			差益	差損	差益			差損		
満期保有目的の債券	15,044	15,173	129	150	20	23,110	23,391	280	299	19
責任準備金対応債券	—	—	—	—	—	—	—	—	—	—
子会社・関連会社株式	—	—	—	—	—	—	—	—	—	—
その他の有価証券	130	199	69	73	3	688	770	82	83	1
公 社 債	—	—	—	—	—	—	—	—	—	—
株 式	30	103	73	73	—	588	671	83	83	—
外 国 証 券	100	96	△3	—	3	100	98	△1	—	1
公 社 債	100	96	△3	—	3	100	98	△1	—	1
株 式 等	—	—	—	—	—	—	—	—	—	—
その他の証券	—	—	—	—	—	—	—	—	—	—
買入金銭債権	—	—	—	—	—	—	—	—	—	—
譲渡性預金	—	—	—	—	—	—	—	—	—	—
その他	—	—	—	—	—	—	—	—	—	—
合 計	15,174	15,373	199	223	23	23,798	24,161	362	383	20
公 社 債	8,429	8,557	127	128	0	15,687	15,918	230	245	14
株 式	30	103	73	73	—	588	671	83	83	—
外 国 証 券	6,714	6,713	△1	21	22	7,523	7,571	48	54	5
公 社 債	6,714	6,713	△1	21	22	7,523	7,571	48	54	5
株 式 等	—	—	—	—	—	—	—	—	—	—
その他の証券	—	—	—	—	—	—	—	—	—	—
買入金銭債権	—	—	—	—	—	—	—	—	—	—
譲渡性預金	—	—	—	—	—	—	—	—	—	—
その他	—	—	—	—	—	—	—	—	—	—

・時価を把握することが極めて困難と認められる有価証券は保有しておりません。

(7) 金銭の信託の時価情報

該当ありません。

4. 中間貸借対照表

(単位：百万円)

科目	期別	2018年度末 要約貸借対照表 (2019年3月31日現在)	2019年度 中間会計期間末 (2019年9月30日現在)
		金額	金額
(資産の部)			
現金及び預貯金		86,188	117,944
有価証券		15,244	23,881
(うち社債)		(8,429)	(15,687)
(うち株式)		(103)	(671)
(うち外国証券)		(6,710)	(7,521)
貸付金		61	155
保険約款貸付		61	155
有形固定資産		294	267
無形固定資産		343	930
再保険		49,475	44,187
その他資産		5,820	9,168
貸倒引当金		△0	△0
資産の部合計		157,428	196,533
(負債の部)			
保険契約準備金		130,801	179,515
支払準備金		404	577
責任準備金		130,397	178,937
再保険		171	201
その他負債		6,797	3,933
未払法人税等		8	4
その他の負債		6,789	3,928
価格変動準備金		4	4
繰延税金負債		19	23
負債の部合計		137,794	183,677
(純資産の部)			
資本金		32,599	32,599
資本剰余金		24,599	24,599
資本準備金		24,599	24,599
利益剰余金		△37,614	△44,401
その他利益剰余金		△37,614	△44,401
繰越利益剰余金		△37,614	△44,401
株主資本合計		19,584	12,796
その他有価証券評価差額金		50	59
評価・換算差額等合計		50	59
純資産の部合計		19,634	12,856
負債及び純資産の部合計		157,428	196,533

5. 中間損益計算書

(単位：百万円)

科 目	期 別	2018年度 中間会計期間	2019年度 中間会計期間
		(2018年4月1日から 2018年9月30日まで)	(2019年4月1日から 2019年9月30日まで)
		金 額	金 額
経 常 収 益		84,183	67,275
保 険 料 等 収 入		84,166	67,208
(うち 保 険 料)		(58,494)	(63,585)
資 産 運 用 収 益		17	62
(うち利息及び配当金等収入)		(17)	(62)
そ の 他 経 常 収 益		0	4
経 常 費 用		87,867	74,058
保 険 金 等 支 払 金		2,633	12,445
(うち 保 険 金)		(353)	(512)
(うち 年 金)		(—)	(50)
(うち 給 付 金)		(524)	(1,150)
(うち 解 約 返 戻 金)		(7)	(1,104)
(うち 其 他 返 戻 金)		(78)	(466)
責 任 準 備 金 等 繰 入 額		53,409	48,713
支 払 備 金 繰 入 額		67	173
責 任 準 備 金 繰 入 額		53,341	48,540
資 産 運 用 費 用		0	0
(うち 支 払 利 息)		(0)	(0)
事 業 費		31,533	12,595
そ の 他 経 常 費 用		291	303
経 常 利 益 (△ は 経 常 損 失)		△3,683	△6,782
特 別 損 失		6	0
税 引 前 中 間 純 利 益 (△ は 税 引 前 中 間 純 損 失)		△3,689	△6,783
法 人 税 及 び 住 民 税		4	4
法 人 税 等 合 計		4	4
中 間 純 利 益 (△ は 中 間 純 損 失)		△3,693	△6,787

6. 中間株主資本等変動計算書

2018年度中間会計期間

(2018年4月1日から2018年9月30日まで)

(単位：百万円)

	株主資本			
	資本金	資本剰余金	利益剰余金	株主資本 合計
		資本準備金	その他利益剰余金 繰越利益剰余金	
当期首残高	27,599	19,599	△29,093	18,106
当中間期変動額				
新株の発行	4,999	4,999		9,999
中間純損失			3,693	3,693
株主資本以外の項目の 当中間期変動額(純額)				
当中間期変動額合計	4,999	4,999	△3,693	6,305
当中間期末残高	32,599	24,599	△32,786	24,411

	評価・換算差額等		純資産 合計
	その他有価証券 評価差額金	評価・換算差額等 合計	
当期首残高	0	0	18,106
当中間期変動額			
新株の発行			9,999
中間純損失			3,693
株主資本以外の項目の 当中間期変動額(純額)	22	22	22
当中間期変動額合計	22	22	6,327
当中間期末残高	22	22	24,434

2019年度中間会計期間

(2019年4月1日から2019年9月30日まで)

(単位：百万円)

	株主資本			
	資本金	資本剰余金	利益剰余金	株主資本 合計
		資本準備金	その他利益剰余金 繰越利益剰余金	
当期首残高	32,599	24,599	△37,614	19,584
当中間期変動額				
中間純損失			6,787	6,787
株主資本以外の項目の 当中間期変動額(純額)				
当中間期変動額合計	—	—	△6,787	△6,787
当中間期末残高	32,599	24,599	△44,401	12,796

	評価・換算差額等		純資産 合計
	その他有価証券 評価差額金	評価・換算差額等 合計	
当期首残高	50	50	19,634
当中間期変動額			
中間純損失			6,787
株主資本以外の項目の 当中間期変動額(純額)	8	8	8
当中間期変動額合計	8	8	△6,778
当中間期末残高	59	59	12,856

注記事項

(中間貸借対照表関係)

2019年度中間会計期間末

- 1 有価証券の評価は、満期保有目的の債券については移動平均法による償却原価法（定額法）、その他有価証券のうち時価のあるものについては9月末日の市場価格等に基づく時価法（売却原価の算定は移動平均法）、時価を把握することが極めて困難と認められるものについて、取得差額が金利調整差額と認められる公社債については移動平均法による償却原価法（定額法）、それ以外の有価証券については移動平均法による原価法によっております。
なお、その他有価証券の評価差額については、全部純資産直入法により処理しております。
- 2 固定資産の減価償却の方法は、次のとおりであります。
 - ① 有形固定資産（リース資産を除く。）
定率法（ただし、建物については定額法）によっております。
 - ② リース資産
所有権移転外ファイナンス・リース取引に係るリース資産
リース期間を耐用年数とし、残存価額をゼロとした定額法によっております。
 - ③ 無形固定資産（リース資産を除く。）
定額法によっております。なお、ソフトウェアの減価償却の方法は、利用可能期間に基づく定額法によっております。
- 3 貸倒引当金は、債権の貸倒れによる損失に備えるため、当社の定める「資産査定規程」、「同基準書」、「償却及び引当金計上規程」および「同基準書」に基づき、次のとおり計上しております。
個別債権ごとに査定し、回収可能性に重大な懸念があると判断した債権または重大な価値の毀損が生じていると判断した債権については必要と認められる額を引当てております。
- 4 価格変動準備金は、保険業法第115条の規定に基づき算出した額を計上しております。
- 5 消費税および地方消費税の会計処理は、税込方式によっております。
- 6 責任準備金は、保険業法第116条の規定に基づく準備金であり、保険料積立金については次の方式により計算しております。
 - ① 標準責任準備金の対象契約については、金融庁長官が定める方式（平成8年大蔵省告示第48号）
 - ② 標準責任準備金の対象とならない契約については、平準純保険料式
- 7 主な金融資産にかかる中間貸借対照表計上額、時価およびこれらの差額については、次のとおりであります。
(単位：百万円)

	中間貸借対照表 計上額	時価	差額
(1) 現金及び預貯金	117,944	117,944	—
(2) 有価証券	23,881	24,161	280
満期保有目的の債券	23,110	23,391	280
その他有価証券	770	770	—
(3) 貸付金	155	155	—
保険約款貸付	155	155	—

- (1) 現金及び預貯金
時価は帳簿価額にほぼ等しいことから、当該帳簿価額によっております。
- (2) 有価証券
9月末日の市場価格等によっております。
- (3) 貸付金
保険約款貸付は、当該貸付を解約返戻金の範囲内に限るなどの特性により返済期限を設けておらず、返済見込み期間及び金利条件等から、時価は帳簿価額と近似しているものと想定されるため、帳簿価額を時価としております。

2019年度中間会計期間末

- 8 貸付金のうち破綻先債権、延滞債権、3カ月以上延滞債権および貸付条件緩和債権は、該当ありません。
- 9 保険業法第259条の規定に基づく生命保険契約者保護機構に対する当中間期末における当社の今後の負担見積額は165百万円であります。なお、当該負担金は拠出した年度の事業費として処理しております。
- 10 金額は、記載単位未満を切り捨てて表示しております。

注記事項

(中間損益計算書関係)

2019年度中間会計期間

- 1 利息及び配当金等収入は有価証券利息・配当金60百万円、貸付金利息1百万円であります。
- 2 1株当たり中間純損失の金額は1,996円35銭であります。
- 3 金額は、記載単位未満を切り捨てて表示しております。

注記事項

(中間株主資本等変動計算書関係)

2019年度中間会計期間

- 1 発行済株式の種類及び総数に関する事項

(単位：千株)

	当 期 首 株 式 数	当 中 間 期 増 加 株 式 数	当 中 間 期 減 少 株 式 数	当 中 間 期 末 株 式 数
発行済株式				
普通株式	3,399	—	—	3,399

- 2 新株予約権および自己新株予約権に関する事項
該当ありません。
- 3 配当金支払額
該当ありません。
- 4 金額は、記載単位未満を切り捨てて表示しております。

7. 経常利益等の明細（基礎利益）

（単位：百万円）

	2018年度 第2四半期（上半期）	2019年度 第2四半期（上半期）
基礎利益 A	△3,558	△6,561
キャピタル収益	—	—
金銭の信託運用益	—	—
売買目的有価証券運用益	—	—
有価証券売却益	—	—
金融派生商品収益	—	—
為替差益	—	—
その他キャピタル収益	—	—
キャピタル費用	—	—
金銭の信託運用損	—	—
売買目的有価証券運用損	—	—
有価証券売却損	—	—
有価証券評価損	—	—
金融派生商品費用	—	—
為替差損	—	—
その他キャピタル費用	—	—
キャピタル損益 B	—	—
キャピタル損益含み基礎利益 A+B	△3,558	△6,561
臨時収益	0	0
再保険収入	—	—
危険準備金戻入額	—	—
個別貸倒引当金戻入額	0	0
その他臨時収益	—	—
臨時費用	124	221
再保険料	—	—
危険準備金繰入額	124	221
個別貸倒引当金繰入額	—	—
特定海外債権引当勘定繰入額	—	—
貸付金償却	—	—
その他臨時費用	—	—
臨時損益 C	△124	△221
経常利益 A+B+C	△3,683	△6,782

8. 債務者区分による債権の状況

(単位：百万円、%)

区 分	2018年度末	2019年度 第2四半期(上半期)末
破産更生債権及びこれらに準ずる債権	—	—
危険債権	—	—
要管理債権	—	—
小計 (対合計比)	(—%)	(—%)
正常債権	61	155
合計	—	—

- (注) 1. 破産更生債権及びこれらに準ずる債権とは、破産手続開始、更生手続開始又は再生手続開始の申立て等の事由により経営破綻に陥っている債務者に対する債権及びこれらに準ずる債権です。
2. 危険債権とは、債務者が経営破綻の状態には至っていないが、財政状態及び経営成績が悪化し、契約に従った債権の元本の回収及び利息の受取りができない可能性の高い債権です。
3. 要管理債権とは、3カ月以上延滞貸付金及び条件緩和貸付金です。なお、3カ月以上延滞貸付金とは、元本又は利息の支払が、約定支払日の翌日から3カ月以上遅延している貸付金(注1及び2に掲げる債権を除く。)、条件緩和貸付金とは、債務者の経営再建又は支援を図ることを目的として、金利の減免、利息の支払猶予、元本の返済猶予、債権放棄その他の債務者に有利となる取決めを行った貸付金(注1及び2に掲げる債権並びに3カ月以上延滞貸付金を除く。)です。
4. 正常債権とは、債務者の財政状態及び経営成績に特に問題がないものとして、注1から3までに掲げる債権以外のものに区分される債権です。

9. リスク管理債権の状況

該当ありません。

10. ソルベンシー・マージン比率

(単位：百万円)

項目	2018年度末	2019年度 第2四半期 (上半期)末
ソルベンシー・マージン総額 (A)	29,541	28,096
資本金等	19,584	12,796
価格変動準備金	4	4
危険準備金	988	1,210
一般貸倒引当金	—	—
(その他有価証券評価差額金(税効果控除前)・繰延ヘッジ損益(税効果控除前))×90%(マイナスの場合100%)	62	74
土地の含み損益×85%(マイナスの場合100%)	—	—
全期チルメル式責任準備金相当額超過額	8,901	24,478
負債性資本調達手段等	—	—
全期チルメル式責任準備金相当額超過額及び負債性資本調達手段等のうち、マージンに算入されない額	—	△ 10,467
控除項目	—	—
その他	—	—
リスクの合計額		
$\sqrt{(R_1 + R_8)^2 + (R_2 + R_3 + R_7)^2} + R_4$ (B)	1,884	2,409
保険リスク相当額 R ₁	431	472
第三分野保険の保険リスク相当額 R ₈	553	731
予定利率リスク相当額 R ₂	1	3
最低保証リスク相当額 R ₇	—	—
資産運用リスク相当額 R ₃	1,516	1,972
経営管理リスク相当額 R ₄	75	95
ソルベンシー・マージン比率 $\frac{(A)}{(1/2) \times (B)} \times 100$	3,134.3%	2,331.9%

(注) 上記は、保険業法施行規則第86条、第87条及び平成8年大蔵省告示第50号の規定に基づいて算出しています。

11. 特別勘定の状況

該当ありません。

12. 保険会社及びその子会社等の状況

該当ありません。